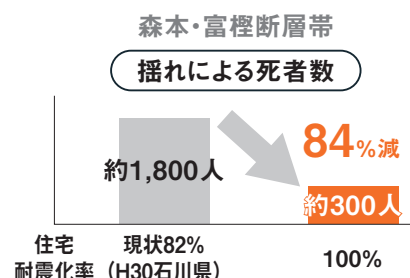


03 4つの減災対策

建物の耐震化

建物倒壊を防ぐことで、命を守ります。
耐震改修工事で地震に強い建物に!



COLUMN

令和6年能登半島地震では、死者のおよそ9割が建物の倒壊によるものとみられています。

工事例

費用を抑えた「低コスト工法」も /

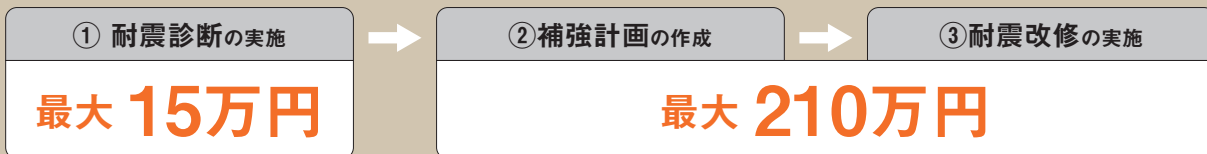


お問い合わせ

石川県住宅耐震化促進事業



耐震化の流れ・補助額



家具の固定

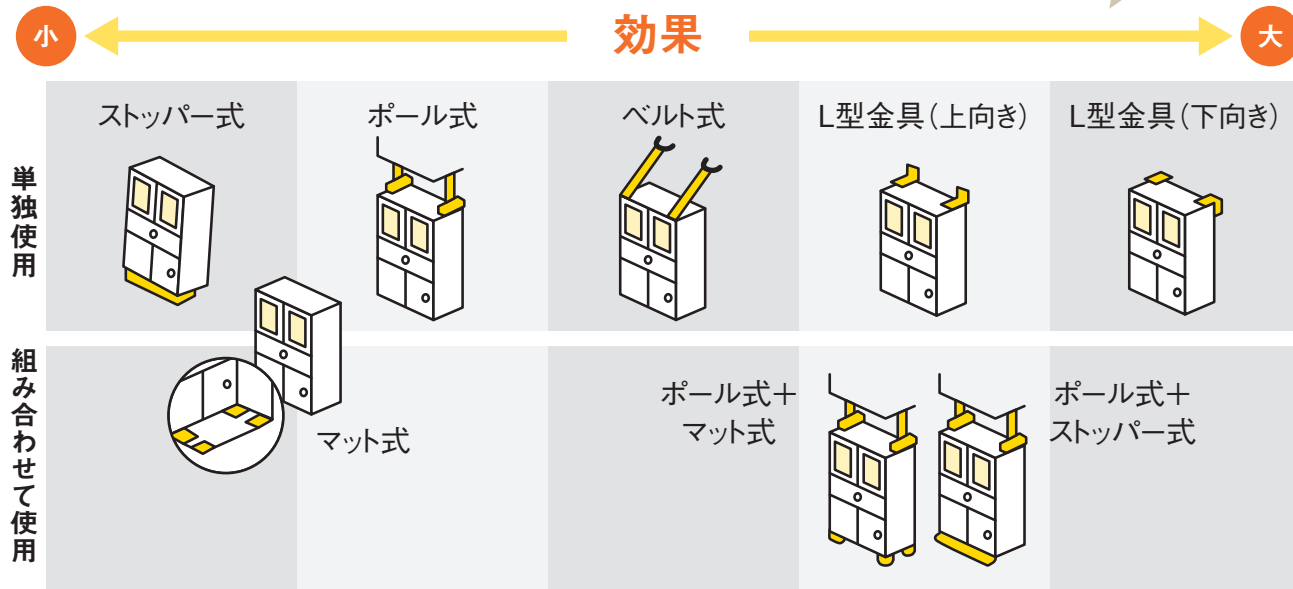
地震の揺れで家具が倒れると、けがや避難の妨げになることも。家具を固定して安全を確保しましょう!

※「防災に関する世論調査」(内閣府)



POINT

L型金具を下向きに取り付ける方法が効果大
壁に穴を開けられない場合は、ボール(つっぱり棒)+ストッパー方式も



©NPO法人プラス・アーツ

感震ブレーカーの設置

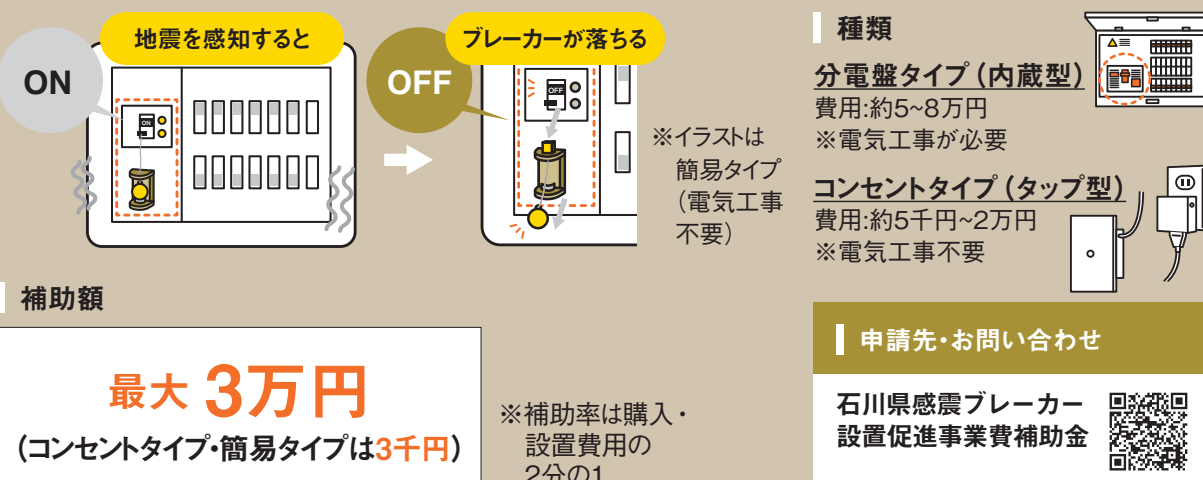
地震の揺れを感知し、自動的に電気を止めて、火災を防ぎます。

※「防災に関する世論調査」(内閣府)



COLUMN

輪島朝市通りを中心とした大規模火災は、電気配線の損傷が原因で発生したと考えられています。



家庭内備蓄

最低でも「3日分」、できれば「1週間分」の食品や簡易トイレを各家庭で備蓄しましょう。

COLUMN

令和6年能登半島地震では、道路状況の影響により、支援物資が届くまで3、4日かかりました。

備蓄の目安(1週間分 大人2人の場合)

必需品	主菜(たんぱく質)	主食(炭水化物)	トイレ
水 2L×24本 (1人1日3L程度)	肉・野菜・豆などの缶詰 18缶	米 2kg×2袋	簡易トイレ 10回×7日 (成人の平均排泄回数5回)
カセットコンロ、カセットボンベ 12本	牛丼やカレーなどのレトルト食品 18個	パックごはん 6個	
	パスタソースなどのレトルト食品 6個	カップ麺類 6個	
		乾麺 そうめん300g×2袋 パスタ600g×2袋	

※アレルギーや持病の対応食、乳幼児用ミルクなどのそれぞれの人にあった備蓄が必要

出典:政府広報オンライン

ローリングストック

普段から少し多めに買い置きし、食べた分を買い足していく備蓄方法です。災害時にも食べ慣れたものが食卓に並び、安心して食事がとれます。



知ることが 命を守る 第一歩

地震にそなえ、今から取り組みましょう!

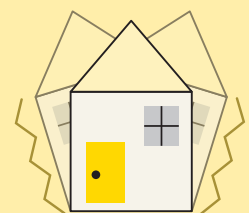


01 石川県で起こり得る大地震

全ての市や町で震度6強以上のリスク。

石川県が行った地震被害想定調査では、県内の全ての市や町で最大震度6強以上が予想される結果となりました。最も被害が大きいと予想される森本・富樫断層帯では、建物の全壊が約4万7千棟、死者が約2,200人発生すると想定されています。

被害想定に関する情報はこちらから
石川県地震被害想定 検索



震度6強の揺れに遭うと…

立っていられず、はって移動するほどの激しい揺れが起こります。建物の壁にひび割れ・亀裂が入り、傾くものや倒れるものも多くなります。道路の地割れやライフラインの停止も広範囲で発生します。

被害想定を行った断層帯

能登半島北岸断層帯

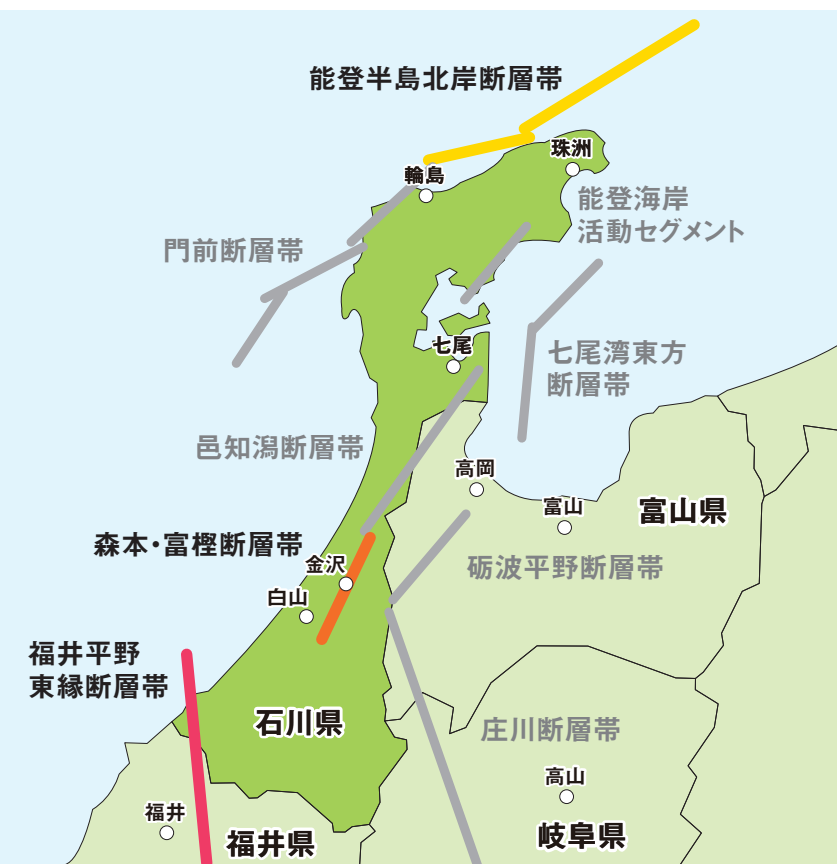
全壊・全焼	23,956棟
死者	1,286人
災害関連死	62～125人
避難者(1週間後)	28,516人

森本・富樫断層帯

全壊・全焼	46,947棟
死者	2,212人
災害関連死	384～768人
避難者(1週間後)	191,898人

福井平野東縁断層帯

全壊・全焼	38,148棟
死者	1,782人
災害関連死	176～352人
避難者(1週間後)	88,059人



お問い合わせ先

石川県危機管理部危機対策課

〒929-8580 金沢市鞍月1-1

TEL 076-225-1482

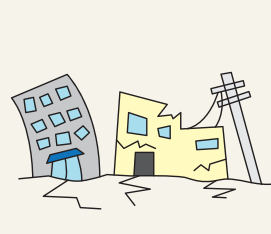
02 地震発生後、身の回りに起こること



地震発生直後

冬の朝5時に地震発生

揺れ・液状化による被害



- 耐震性の低い古い建物が多く倒壊。
- 揺れにより、多くの死傷者が発生。
- 沿岸地域などでは液状化による被害も発生。

広域的な停電による通信支障



- 停電で携帯電話などが充電できず、家族との連絡が取れなくなる。
- 通信設備の停止で、通話やインターネットが使えなくなる可能性も。

火災による被害



- 木造住宅が密集する地域で複数の火災が発生。
- 停電から復旧したとき、電気機器や配線から火災が発生。

ライフライン・交通施設被害

- 水道や下水などのライフラインに被害が出て、お風呂やトイレが使用不能に。
- ガソリンスタンドに長い列ができ、給油が困難に。
- 停電が続くと、避難所で照明や冷暖房が使えず、不便な避難生活になることも。

建物等の倒壊による人的被害



- 建物の下敷きになると、救助が困難に。
- 救助されても、体を強く圧迫されたことで命を落とすことも。

家具の転倒による被害



- 固定していない家具が倒れて、死傷者が発生。

道路被害

- 道路の応急復旧が進んでも、緊急車両が優先されるため一般車は通行が制限。

令和6年能登半島地震でも大きな被害が!

建物の倒壊や大規模な火災などが発生。



数日後

1週間後

1ヶ月後

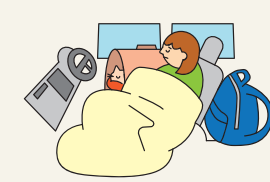
※余震や降雨・積雪等により被害が拡大

避難所の混雑、衛生環境の悪化、災害関連死の発生



- 避難所が満員になると、廊下や共有スペースにも人があふれる。
- 冬はインフルエンザなどの感染症、夏は衛生面の問題が起こりやすくなる。
- 避難生活が長引くと、体調悪化や持病の悪化により命に関わることも。

車中泊を中心にエコノミークラス症候群の発生



- 車中泊が長引くと、暑さ・寒さや健康への影響が心配に。
- 冬季の屋外避難は継続が困難になることも。

孤立集落の発生

- 中山間地などの孤立した地域では、道路による物資の運搬が難しくなり、生活に必要なものが不足。
- 通信が途絶えると、避難者が自分で情報を得る手段がなくなる。

物資不足



- 道路の寸断や規制で渋滞が発生し、物資や人の移動が滞る。
- 乳児用品や女性用品、薬などの生活必需品が不足。

罹災証明書の遅れ



- 被災棟数の多さや道路の寸断などにより、罹災証明書の発行が遅れることも。

人手不足や資機材の不足による応急復旧作業の長期化

- 道路の被害などで復旧作業に必要な人員や資材が届かず、応急復旧が長引くことも。

広域避難の実施

- 復旧が長引くと、被災地以外への一時的な広域避難(1.5次・2次避難)が必要に。
- 慣れない環境や人間関係で、体調を崩す人も。